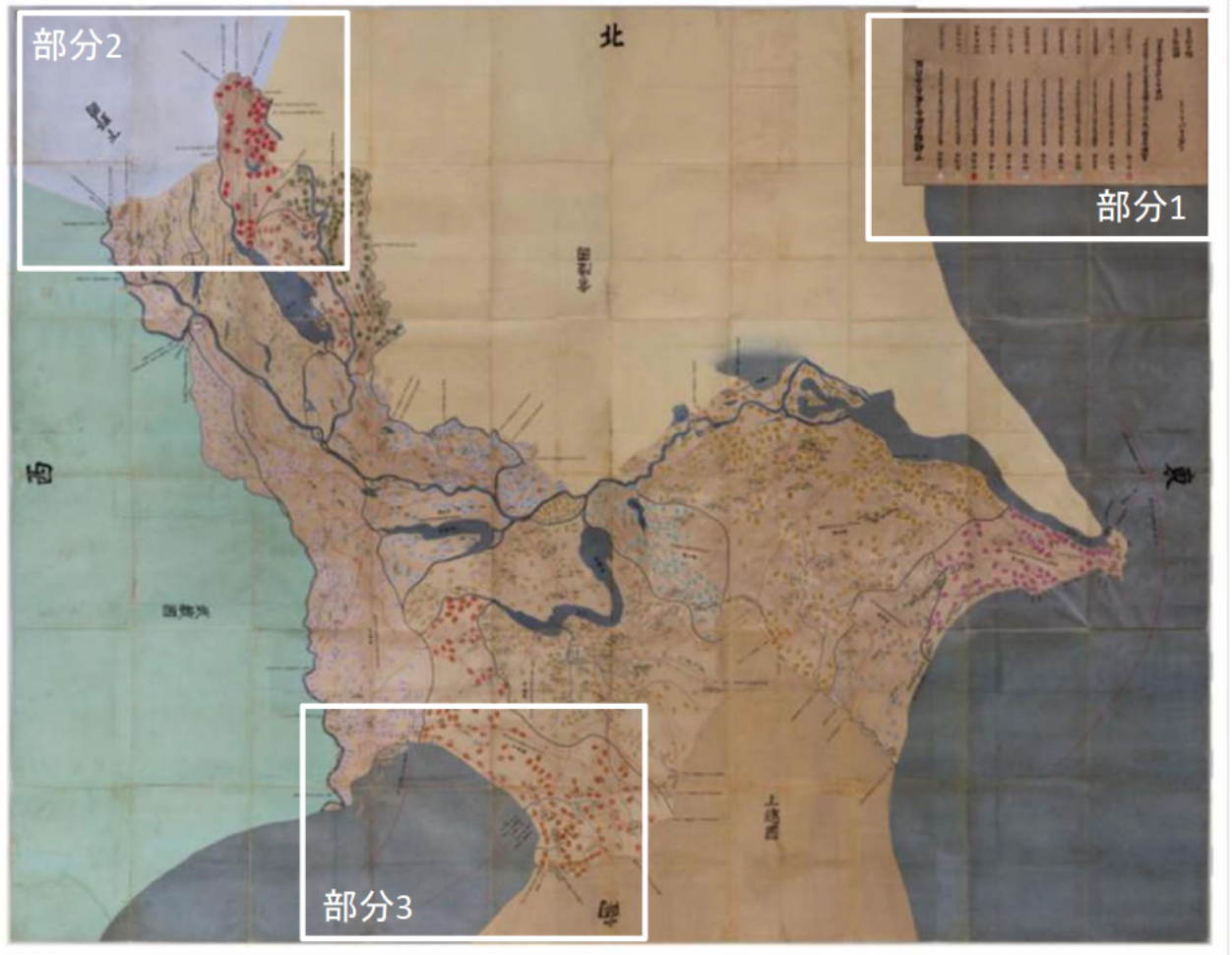


特083-0001-34 元禄下総国絵図



松平侯爵
牧野備前守

[illegible]

部分2



特083-0001-34 元禄下総国絵図

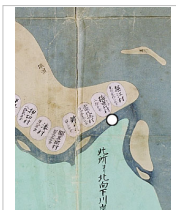




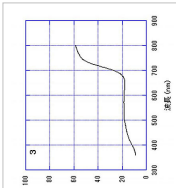
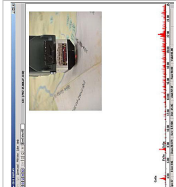
部分3






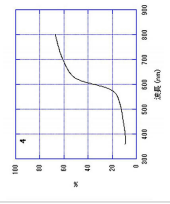






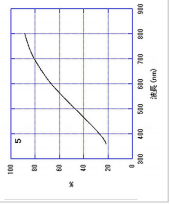
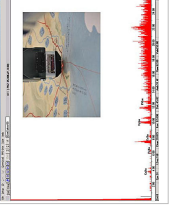

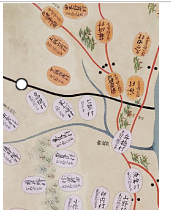



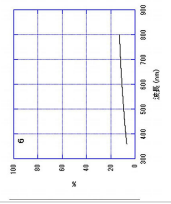
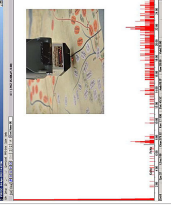
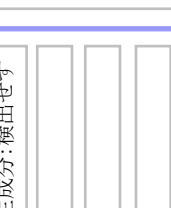


No.	測定箇所		色	No.	測定箇所		色
1	地色		薄茶	18	〃	結城	赤
2	海		薄青	19	〃	豊田	緑
3	川		薄青	20	〃	岡田	茶
4	道		赤	21	〃	相馬	薄青
5	一里塚		黒	22	〃	千葉	橙
6	郡境		黒	23	〃	印旛	薄黄
7	山(古城)		薄緑	24	〃	埴生	薄緑
8	樹木	葉	薄緑	25	〃	香取	黄
9	〃	葉	薄青	26	〃	匝瑳	薄灰
10	〃	葉	薄緑	27	〃	海上	臙脂
11	〃	松	緑	28	国	常陸	薄黄土
12	〃	幹	薄黒	29		下野	薄水
13	〃	幹	薄赤黒	30		武蔵	白緑
14	建造物	屋根	薄赤茶	31		上総	薄茶
15	〃	柱	赤茶	32	建造物	城	白
16	村形	葛飾	薄赤	33	地色		一
17	〃	猿嶋	薄黄	34	航路		赤

[illegible]

ポイント№	3	モチーフ	川	色	薄青色	推定色料名	藍+胡粉か
会期調査日	2009/01/14		2010/8/26	DICNo.	444	肉眼で薄青色、デジカメ(GX-100)の観察で青色を確認。蛍光X線分析は微量のCa・Fe元素が検出、可視反射分光スペクトルは、indigo系染料を主成分とするスペクトルの特徴を示していることから、藍と胡粉の混色と推定した。	

絵図(部分)	デジカメ(GX-100)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射分光スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
							
	2009/01/14撮影	未調査	未調査	未調査	2010/08/26測定	2010/08/26測定	

特083-0001-34		元禄下総国絵図		1696		作成年代		1696		年		所蔵機関		国立公文書館			
ポイント№		4		モチーフ		道		色		赤色		推定色料名		朱(辰砂)か			
絵図調査日		2009/01/14		2010/8/26				DICH№		197		肉眼で赤色、デジタルメ(GX-100)の観察で赤色を確認。蛍光X線分析は主にHg元素が検出したことから、朱と推定した。					
絵図(部分)		デジタルメ(GX-100)		×100(ピーク)		×175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		可視反射スペクトル		蛍光X線スペクトル		メモ			
																主成分: Hg	
		2009/01/14撮影		未調査		未調査		未調査		2010/08/26測定		2010/08/26測定		2010/08/26測定			
特083-0001-34		元禄下総国絵図		1696		作成年代		1696		年		所蔵機関		国立公文書館			
ポイント№		5		モチーフ		一里塚		色		黒色		推定色料名		墨か			
絵図調査日		2009/01/14		2010/8/26				DICH№		582		肉眼で黒色、デジタルメ(GX-100)の観察で周囲に墨の線、中に墨の丸、間は薄墨か胡粉か不明な線が描かれている。蛍光X線分析は微量のCa・Hg元素が検出したことから、墨および薄墨か胡粉と推定した。					
絵図(部分)		デジタルメ(GX-100)		×100(ピーク)		×175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		可視反射スペクトル		蛍光X線スペクトル		メモ			
																微量成分: Ca 微量成分: Hg	
		2009/01/14撮影		未調査		未調査		未調査		2010/08/26測定		2010/08/26測定		一部、青色あり Hg元素は道の影響か			
特083-0001-34		元禄下総国絵図		1696		作成年代		1696		年		所蔵機関		国立公文書館			
ポイント№		6		モチーフ		郡境		色		黒色		推定色料名		墨か			
絵図調査日		2009/01/14		2010/8/26				DICH№		582		肉眼で黒色、デジタルメ(GX-100)の観察で黒色を確認。蛍光X線分析は無反応を示していることから、墨と推定した。					
絵図(部分)		デジタルメ(GX-100)		×100(ピーク)		×175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		可視反射スペクトル		蛍光X線スペクトル		メモ			
																主成分: 検出せず	
		2009/01/14撮影		未調査		未調査		未調査		2010/08/26測定		2010/08/26測定		2010/08/26測定			

[illegible]

特083-0001-34		元禄下総国絵図		1696		作成年代		1696		年		所蔵機関		国立公文書館	
ポイント№		10		モチーフ		葉		色		薄茶緑色		推定色料名		不明	
絵図調査日		2009/01/14		2010/8/26				DICH№		528		肉眼で薄緑色、デジカメ（GX-100）の観察で茶緑色を確認。蛍光X線分析は無反応であることから、不明とした。			
絵図(部分)		デジカメ(GX-100)		×100(ピーク)		×175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		可視反射スペクトル		蛍光X線スペクトル		メモ	
														<p>主成分: 検出せず</p>	
		2009/01/14撮影		未調査		未調査		未調査		2010/08/26測定		2010/08/26測定			
特083-0001-34		元禄下総国絵図		1696		作成年代		1696		年		所蔵機関		国立公文書館	
ポイント№		11		モチーフ		葉(松)		色		緑色		推定色料名		緑青か 藍+藤黄か	
絵図調査日		2009/01/14		2010/8/26				DICH№		377		肉眼で緑色、デジカメ（GX-100）の観察で緑色の粒子、緑色を確認。蛍光X線分析は主にCu元素が検出、可視反射分光スペクトルは、indigo系染料の特徴を示していることから、藍と藤黄の混色に緑青と推定した。			
絵図(部分)		デジカメ(GX-100)		×100(ピーク)		×175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		可視反射スペクトル		蛍光X線スペクトル		メモ	
														<p>主成分: Cu</p>	
		2009/01/14撮影		未調査		未調査		未調査		2010/08/26測定		2010/08/26測定			
特083-0001-34		元禄下総国絵図		1696		作成年代		1696		年		所蔵機関		国立公文書館	
ポイント№		12		モチーフ		幹		色		薄黒色		推定色料名		墨か	
絵図調査日		2009/01/14		2010/8/26				DICH№		582		肉眼で薄黒色、デジカメ（GX-100）の観察で黒色を確認。蛍光X線分析は無反応であることから、墨と推定した。			
絵図(部分)		デジカメ(GX-100)		×100(ピーク)		×175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		可視反射スペクトル		蛍光X線スペクトル		メモ	
														<p>主成分: 検出せず</p>	
		2009/01/14撮影		未調査		未調査		未調査		2010/08/26測定		2010/08/26測定			

特083-0001-34

元禄下総国絵図

作成年代

1696

所蔵機関

国立公文書館

特083-0001-34

モチーフ

幹

色

朱+墨か

推定色料名

朱+墨か

赤茶色

DICNo.

322

2009/01/14

2010/8/26

2009/01/14撮影

2010/08/26測定

デジタルカメラ(GX-100)

×100(ピーク)

×175(キーエンス)

赤外線写真(部分)

可視反射スペクトル

蛍光X線スペクトル

メモ

特083-0001-34

モチーフ

屋根

色

薄赤茶色

推定色料名

朱+墨か

薄赤茶色

DICNo.

331

2009/01/14

2010/8/26

2009/01/14撮影

2010/08/26測定

デジタルカメラ(GX-100)

×100(ピーク)

×175(キーエンス)

赤外線写真(部分)

可視反射スペクトル

蛍光X線スペクトル

メモ

特083-0001-34

モチーフ

幹

色

朱+墨か

推定色料名

朱+墨か

赤茶色

DICNo.

322

2009/01/14

2010/8/26

2009/01/14撮影

2010/08/26測定

デジタルカメラ(GX-100)

×100(ピーク)

×175(キーエンス)

赤外線写真(部分)

可視反射スペクトル

蛍光X線スペクトル

メモ

特083-0001-34

モチーフ

屋根

色

薄赤茶色

推定色料名

朱+墨か

薄赤茶色

DICNo.

331

2009/01/14

2010/8/26

2009/01/14撮影

2010/08/26測定

デジタルカメラ(GX-100)

×100(ピーク)

×175(キーエンス)

赤外線写真(部分)

可視反射スペクトル

蛍光X線スペクトル

メモ

特083-0001-34

元禄下総国絵図

1696

年

所蔵機関

国立公文書館

ポイント№

16

モチーフ

村形(葛飾郡)

色

桃色

推定色料名

臙脂+胡粉か

2と3の間

DIC№

197

肉眼で桃色、デジカメ(GX-100)の観察で桃色を確認。蛍光X線分析は微量のCa元素が検出、可視反射分光スペクトルは、複数の色材による混色の特徴を示していることから、臙脂と胡粉の混色と推定した。

絵図(部分)

デジカメ(GX-100)

×100(ピーク)

×175(キーエンス)

赤外線写真(部分)

可視反射スペクトル

蛍光X線スペクトル

微量成分:Ca

2010/08/26撮影

2010/08/26測定

メモ

特083-0001-34

元禄下総国絵図

1696

年

所蔵機関

国立公文書館

ポイント№

17

モチーフ

村形(猿嶋郡)

色

薄黄色

推定色料名

黄土+胡粉か

334

DIC№

334

肉眼で薄黄色、デジカメ(GX-100)の観察で黄色を確認。蛍光X線分析は微量のCa、少量のFe元素が検出したことから、黄土と胡粉の混色と推定した。

絵図(部分)

デジカメ(GX-100)

×100(ピーク)

×175(キーエンス)

赤外線写真(部分)

可視反射スペクトル

蛍光X線スペクトル

微量成分:Ca

2010/08/26撮影

2010/08/26測定

メモ

特083-0001-34

元禄下総国絵図

1696

年

所蔵機関

国立公文書館

ポイント№

18

モチーフ

村形(結城郡)

色

赤色

推定色料名

朱+丹か

197

DIC№

197

肉眼で赤色、デジカメ(GX-100)の観察で赤色を確認。蛍光X線分析は主にPb・Hg元素が検出したことから、朱と丹の混色と推定した。

絵図(部分)

デジカメ(GX-100)

×100(ピーク)

×175(キーエンス)

赤外線写真(部分)

可視反射スペクトル

蛍光X線スペクトル

主成分:Hg


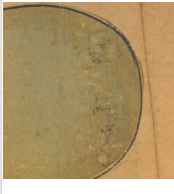
少量成分:Pb



2010/08/26撮影

2010/08/26測定

メモ

151

絵図名	特083-0001-34	元禄下総国絵図	作成年代	1696	年	所蔵機関	国立公文書館
ポイントNo.	19	モチーフ	村形(豊田郡)	色	緑色	推定色料名	白緑+藍+胡粉か
絵図調査日	2009/01/14		2010/8/26	DICNo.	390と391	肉眼で緑色、デジカメ(GX-100)の観察で緑色を確認。蛍光X線分析は主にCu・少量のCa元素が検出、可視反射分光スペクトルは、indigoを主成分とする染料の特徴を示していることから、藍と胡粉と白緑の混色と推定した。	
絵図(部分)		デジカメ(GX-100)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射分光スペクトル	蛍光X線スペクトル
		2009/01/14撮影	未調査	未調査	画像なし	画像なし	主成分:Cu 微量成分:Ca
					未調査	2010/08/26測定	2010/08/26測定

絵図名	特083-0001-34	元禄下総国絵図	作成年代	1696	年	所蔵機関	国立公文書館
ポイントNo.	20	モチーフ	村形(岡田郡)	色	茶色	推定色料名	ベンガラ+胡粉か 岱精+胡粉か
絵図調査日	2009/01/14			DICNo.	315	肉眼で茶色、デジカメ(GX-100)の観察で茶色を確認。蛍光X線分析は主にFe・微量のCa元素が検出したことから、ベンガラか岱精と胡粉の混色と推定した。	
絵図(部分)		デジカメ(GX-100)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射分光スペクトル	蛍光X線スペクトル
		2009/01/14撮影	未調査	未調査	画像なし	画像なし	主成分:Fe 微量成分:Ca
					未調査	2010/08/26測定	2010/08/26測定

特083-0001-34

元禄下総国絵図

作成年代

1696

年

所蔵機関

国立公文書館

特083-0001-34

モチーフ

村形(千葉郡)

色

橙色

推定色料名

丹+胡粉か

推定色料名

丹+胡粉か

肉眼で橙色、デジカメ(GX-100)の観察で橙色を確認。蛍光X線分析は主にPb・微量のCaが検出したことから、丹と胡粉の混色と推定した。

22

2009/01/14

2010/8/26

53

DICNo.

絵図(部分)

子葉郡

印旛郡

殖生郡

2009/01/14撮影

×100(ピーク)

×175(キーエンス)

赤外線写真(部分)

画像なし

画像なし

2009/01/14撮影

未調査

未調査

可視反射スペクトル

2010/08/26測定

2010/08/26測定

蛍光X線スペクトル

主成分:Pb

微量成分:Ca

2010/08/26測定

メモ

特083-0001-34

モチーフ

村形(印旛郡)

色

黄色

推定色料名

藤黄+胡粉か

推定色料名

藤黄+胡粉か

肉眼で黄色、デジカメ(GX-100)の観察で黄色を確認。蛍光X線分析は少量のCa元素が検出したことから、藤黄と胡粉の混色と推定した。

23

2009/01/14

2010/8/26

8の9間

DICNo.

絵図(部分)

子葉郡

印旛郡

殖生郡

2009/01/14撮影

×100(ピーク)

×175(キーエンス)

赤外線写真(部分)

画像なし

画像なし

2009/01/14撮影

未調査

未調査

可視反射スペクトル

2010/08/26測定

2010/08/26測定

蛍光X線スペクトル

少量成分:Ca

2010/08/26測定

メモ

特083-0001-34

元禄下総国絵図

作成年代

1696

年

所蔵機関

国立公文書館

特083-0001-34

モチーフ

村形(千葉郡)

色

橙色

推定色料名

丹+胡粉か

推定色料名

丹+胡粉か

肉眼で橙色、デジカメ(GX-100)の観察で橙色を確認。蛍光X線分析は主にPb・微量のCaが検出したことから、丹と胡粉の混色と推定した。

22

2009/01/14

2010/8/26

53

DICNo.

絵図(部分)

子葉郡

印旛郡

殖生郡

2009/01/14撮影

×100(ピーク)

×175(キーエンス)

赤外線写真(部分)

画像なし

画像なし

2009/01/14撮影

未調査

未調査

可視反射スペクトル

2010/08/26測定

2010/08/26測定

蛍光X線スペクトル

主成分:Pb

微量成分:Ca

2010/08/26測定

メモ

特083-0001-34

モチーフ

村形(印旛郡)

色

黄色

推定色料名

藤黄+胡粉か

推定色料名

藤黄+胡粉か

肉眼で黄色、デジカメ(GX-100)の観察で黄色を確認。蛍光X線分析は少量のCa元素が検出したことから、藤黄と胡粉の混色と推定した。

23

2009/01/14

2010/8/26

8の9間

DICNo.

絵図(部分)

子葉郡

印旛郡

殖生郡

2009/01/14撮影

×100(ピーク)

×175(キーエンス)

赤外線写真(部分)

画像なし

画像なし

2009/01/14撮影

未調査

未調査

可視反射スペクトル

2010/08/26測定

2010/08/26測定

蛍光X線スペクトル

少量成分:Ca

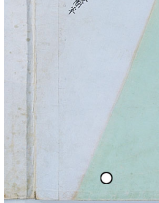
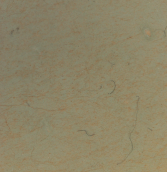
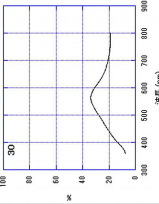
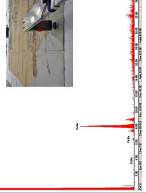
2010/08/26測定






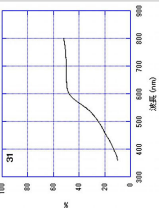
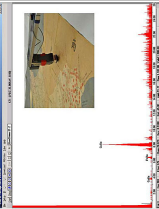





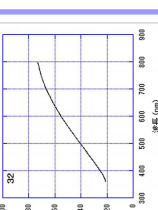
メモ

ポイント№	24	モチーフ	村形(埴生郡)	色	薄緑色	推定色料名	白緑+胡粉か									
図会調査日	2009/01/14	2010/8/26		DICNo.	415+黄味	肉眼で薄緑色、デジカメ(GX-100)の観察で緑色を確認。蛍光X線分析は主にCu・微量のCa元素が検出、可視反射分光スペクトルは、緑青の存在を示していることから、胡粉と白緑の混合と推定した。										
絵図(部分)			デジカメ(GX-100)			×100(ピーク)	×175(キーエンス)	可視反射スペクトル	24		可視X線スペクトル		主成分: Cu 微量成分: Ca	メモ		
		2009/01/14撮影	未調査	未調査	画像なし	画像なし	未調査	2010/08/26測定	2010/08/26測定							

[illegible][illegible]

絵図名		特083-0001-34		元禄下総国絵図		作成年代		1696		年		所蔵機関		国立公文書館			
ポイントNo.		28		モチーフ		国(常陸)		色		薄黄土色		推定色料名		黄土+胡粉か			
絵図調査日		2009/01/14		2010/8/26				DICNo.		8							
絵図(部分)		デジカメ(GX-100)		×100(ピーク)		×175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		可視反射スペクトル		蛍光X線スペクトル		メモ			
								画像なし		画像なし						<div>少量成分:Fe</div> <div>微量成分:Ca</div>	
		2009/01/14撮影		未調査		未調査		未調査		2010/08/26測定		2010/08/26測定		2010/08/26測定			
絵図名		特083-0001-34		元禄下総国絵図		作成年代		1696		年		所蔵機関		国立公文書館			
ポイントNo.		29		モチーフ		国(下野)		色		薄青色		推定色料名		藍+胡粉か			
絵図調査日		2009/01/14						DICNo.		21							
絵図(部分)		デジカメ(GX-100)		×100(ピーク)		×175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		可視反射スペクトル		蛍光X線スペクトル		メモ			
								画像なし		画像なし						<div>少量成分:Ca</div>	
		2009/01/14撮影		未調査		未調査		未調査		2010/08/26測定		2010/08/26測定		2010/08/26測定			
絵図名		特083-0001-34		元禄下総国絵図		作成年代		1696		年		所蔵機関		国立公文書館			
ポイントNo.		29		モチーフ		国(下野)		色		薄青色		推定色料名		藍+胡粉か			
絵図調査日		2009/01/14						DICNo.		21							
絵図(部分)		デジカメ(GX-100)		×100(ピーク)		×175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		可視反射スペクトル		蛍光X線スペクトル		メモ			
								画像なし		画像なし						<div>少量成分:Ca</div>	
		2009/01/14撮影		未調査		未調査		未調査		2010/08/26測定		2010/08/26測定		2010/08/26測定			

ポイントNo.	30	モチーフ	国(武蔵)	色	薄緑色	推定色料名	白緑か、		
会期調査日	2009/01/14	2010/8/26		DICNo.	390	肉眼で薄緑色、デジタルカメラ(GX-100)の観察で緑色を確認。蛍光X線分析は主にCu元素が検出、可視反射分光スペクトルは、緑青の特徴を示していることから、白緑と推定した。			
絵図(部分)		デジタルカメラ(GX-100)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	主成分:Cu	メモ
			画像なし	画像なし	画像なし				
	2009/01/14撮影	未調査	未調査	未調査	未調査	2010/08/26測定	2010/08/26測定		

絵図名	特083-0001-34	元禄下総国絵図	作成年代	1696	年	所蔵機関	国立公文書館
ポイントNo.	31	モチーフ	国(上総)	色	薄茶色	推定色料名	白緑+ベンガラ+胡粉か 白緑+岱醋+胡粉か
絵図調査日	2009/01/14	2010/8/26	DICNo.	316+白黄	肉眼で薄茶色、デジカメ(GX-100)の観察で白色と茶色を確認。蛍光X線分析は少量のCu・微量のCa・Fe元素が検出したことから、白緑とベンガラか岱醋と胡粉の混色と推定した。		
絵図(部分)	デジカメ(GX-100)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
							少量成分:Cu 微量成分:Ca 微量成分:Fe 2010/08/26測定
	2009/01/14撮影	未調査	未調査	未調査	2010/08/26測定	2010/08/26測定	
絵図名	特083-0001-34	元禄下総国絵図	作成年代	1696	年	所蔵機関	国立公文書館
ポイントNo.	32	モチーフ	城	色	白色	推定色料名	胡粉か
絵図調査日	2009/01/14	2010/8/26	DICNo.	未調査	肉眼で白色を確認。蛍光X線分析は少量のCa元素が検出したことから、胡粉と推定した。		
絵図(部分)	×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ	
						少量成分:Ca 2010/08/26測定	
	未調査	未調査	未調査	2010/08/26測定	2010/08/26測定		
絵図名	特083-0001-34	元禄下総国絵図	作成年代	1696	年	所蔵機関	国立公文書館

<div>ポイント№</div>	<div>33</div>	<div>モチーフ</div>	<div>国(上総)</div>	<div>色紙地</div>	<div>推定色料名</div>	<div>色なし</div>
<div>会図調査日</div>	<div>2009/01/14</div>	<div>2010/8/26</div>	<div></div>	<div>未調査</div>	<div>DICNo.</div>	<div></div>
<div>肉眼で紙地を確認。蛍光線分析は無反応を示していることから、色なしと推定した。</div>						

絵図(部分)

×100(ピーク)

画像なし

×175(キーエンス)

画像なし

赤外線写真(部分)

画像なし

可視反射スペクトル

画像なし

蛍光X線スペクトル

主成分:検出せず

2010/08/26測定

メモ

絵図名	特083-0001-34	元禄下総国絵図	作成年代	1696 年	所蔵機関	国立公文書館
-----	--------------	---------	------	--------	------	--------

ポイントNo.	34	モナーフ	航路	色	赤色	推定色料名	朱(辰砂)か	朱(辰砂)	
絵図調査日	2009/01/14	2010/8/26		DICNo.	197	肉眼で赤色を確認。蛍光X線分析は主にHg元素が検出したことから、朱と推定した。			

絵図(部分)			×100(ピーク)	×175(キーエンス)	赤外線写真(部分)	可視反射スペクトル	蛍光X線スペクトル	メモ
			画像なし	画像なし	画像なし	画像なし		主成分: Hg
			画像なし	画像なし	画像なし	画像なし		2010/08/26測定

特083-0001-34

元禄下総国絵図

作成年代

1696

所蔵機関

国立公文書館

絵図名

ポイント№

a

モチーフ

山

色

未調査

推定色料名

不明

絵図調査日

2009/01/14

DICNo.

未調査

絵図(部分)



メモ

草の汁地に草の汁の点、藍地に藍の点か、薄墨地に墨の点か

×100(ピーク)

×175(キーエンス)

赤外線写真(部分)

可視反射スペクトル

蛍光X線スペクトル

未調査

画像なし

画像なし

画像なし

未調査

未調査

未調査

未調査

未調査

未調査

特083-0001-34

元禄下総国絵図

1696年

所蔵機関

国立公文書館

色未調査
推定色料名不明

DICNo.
未調査

bモザーフ橋

2009/01/14

ポイント№

絵図調査日

×175(キーエンス)

×100(ピーク)

×175(キーエンス)

×100(ピーク)




赤外線写真(部分)

可視反射スペクトル

蛍光X線スペクトル

メモ

道の赤色の上に塗りつぶすように橋を描いている

絵図名		特083-0001-34		元禄下総国絵図		作成年代		1696		年		所蔵機関		国立公文書館	
ポイントNo.		c		モチーフ		村形(結城郡)		色		未調査		推定色料名		不明	
絵図調査日		2010/09/01						DicNo.		未調査					
絵図(部分)				x100(ピーク)		x175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		画像なし		可視反射スペクトル		画像なし	
								未調査		未調査		蛍光X線スペクトル		未調査	
								未調査		未調査				メモ 赤色の上に墨?の線が描かれていたのが見える	
絵図名		特083-0001-34		元禄下総国絵図		作成年代		1696		年		所蔵機関		国立公文書館	
ポイントNo.		d		モチーフ		沼		色		未調査		推定色料名		不明	
絵図調査日		2009/01/14						DicNo.		未調査					
絵図(部分)				x100(ピーク)		x175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		画像なし		可視反射スペクトル		画像なし	
								未調査		未調査		蛍光X線スペクトル		未調査	
								未調査		未調査				メモ マスキングの技法を使っているのか	
絵図名		特083-0001-34		元禄下総国絵図		作成年代		1696		年		所蔵機関		国立公文書館	
ポイントNo.		e		モチーフ		樹木		色		未調査		推定色料名		不明	
絵図調査日		2009/01/14						DicNo.		未調査					
絵図(部分)				x100(ピーク)		x175(キーエンス)		赤外線写真(部分)		画像なし		可視反射スペクトル		画像なし	
								未調査		未調査		蛍光X線スペクトル		未調査	
								未調査		未調査				メモ 樹木の根元付近は、草の汁?の下の地に墨?の線?で草の表現をしているのか	

絵図名

特083-0001-34

元禄下総国絵図

作成年代

1696

年

所蔵機関

国立公文書館

ポイントNo.

i

モチーフ

一里塚

色

未調査

推定色料名

不明

絵図調査日

2009/01/14

DICNo.

未調査

絵図(部分)

×100(ピーク)

×175(キーエンス)

赤外線写真(部分)

画像なし

画像なし

画像なし

可視反射スペクトル

画像なし

蛍光X線スペクトル

画像なし

未調査

未調査

未調査

未調査

メモ

周囲に墨の線、中に墨の丸、間は薄墨(周囲の線のじみか塗っているのかは不明)のように描かれている

絵図名

特083-0001-34

元禄下総国絵図

作成年代

1696

年

所蔵機関

国立公文書館

ポイントNo.

j

モチーフ

一里塚

色

未調査

推定色料名

不明

絵図調査日

2009/01/14

DICNo.

未調査

絵図(部分)

×100(ピーク)

×175(キーエンス)

赤外線写真(部分)

画像なし

画像なし

画像なし

可視反射スペクトル

画像なし

蛍光X線スペクトル

画像なし

未調査

未調査

未調査

未調査

メモ

周囲に墨の線、中に墨の丸、間は薄墨(周囲の線のじみか塗っているのかは不明)のように描かれている

【元禄薩摩国絵図】									
No.	測定箇所	色	XRFによる検出強度 (cps)						
			Ca-K α	Fe-K α	Cu-K α	Hg-L β	Pb-L β	Zn-K α	As-K α
1	地色	—							
2	海	薄青	0.6						
3	川	薄青	1.0						
4	道	赤				6.9	5.7		
5	一里塚	黒/赤	0.2			1.1	0.7		
6	郡境	黒							
7	山	薄緑							
8	〃	薄橙							
9	〃	薄灰							
10	〃	薄青							
11	樹木	葉	薄緑						
12	〃	葉	薄茶緑						
13	〃	葉	薄青						
14	〃	葉	薄橙			0.6			
15	〃	幹	薄灰						
16	〃	葉	薄茶			0.4			
17	城(鹿児島城)	白	0.3						
18	建造物	屋根	赤茶	0.2	0.1	1.5	1.5		
19	〃	柱	薄赤茶	0.2		0.9	0.9		
20	村形	鹿児島	薄青	0.4					
21	〃	谿山	薄赤	0.5	0.1	8.2	14.3		
22	〃	給黎	赤茶	0.3					
23	〃	揖宿	白	1.3			4.7		
24	〃	穎娃	薄緑	0.6	0.1	9.3			
25	〃	河邊	茶	0.3	1.0				
26	〃	阿多	薄黄	0.6			1.7		
27	〃	日置	桃	0.7					
28	〃	薩摩	濃黄	0.2					
29	〃	伊佐	白緑	1.3	0.2	26.0			
30	〃	出水	薄桃	1.0	0.2		16.2		
31	〃	高城	灰	0.6					
32	〃	甕嶋	灰茶				2.2		
33	国	肥後	薄黄	0.5					
34		日向	薄緑	0.3	0.1	8.6			
35		大隅	薄桃	0.6					
36	樹木	松	緑		0.1	8.4			
37	村形		白	0.8		1.0	1.8		
38	指示穴	—	0.7						

【元禄下総国絵図】										
No.	測定箇所	色	XRFによる検出強度 (cps)							
			Ca-K α	Fe-K α	Cu-K α	Hg-L β	Pb-L β	Zn-K α	As-K α	
1	地色	薄茶								
2	海	薄青	0.2	0.1						
3	川	薄青	0.2	0.2						
4	道	赤				5.2				
5	一里塚	黒	0.1			0.9				
6	郡境	黒								
7	山(古城)	薄緑	0.1							
8	樹木	葉	薄緑							
9	〃	葉	薄青	0.2	0.2					
10	〃	葉	薄緑	0.2						
11	〃	松	緑	0.3	9.8	3.7				
12	〃	幹	薄黒							
13	〃	幹	薄赤黒			0.5				
14	建造物	屋根	薄赤茶	0.1		0.9				
15	〃	柱	赤茶			1.1				
16	村形	葛飾	薄赤	0.8						
17	〃	猿嶋	薄黄	0.2	0.5					
18	〃	結城	赤	0.3		37.4	5.7			
19	〃	豊田	緑	0.6	0.2	6.3				
20	〃	岡田	茶	0.8	1.3					
21	〃	相馬	薄青	1.0						
22	〃	千葉	橙	0.3	0.2		39.9			
23	〃	印旛	薄黄	0.7						
24	〃	埴生	薄緑	0.5	0.3	27.6				
25	〃	香取	黄	1.2	0.4		5.6			
26	〃	匝瑳	薄灰	1.1	0.4					
27	〃	海上	臙脂	1.0						
28	国	常陸	薄黄土	0.8	1.0					
29		下野	薄水	1.1	0.2					
30		武蔵	白緑		0.3	11.7				
31		上総	薄茶	0.3	0.5	5.2				
32	建造物	城	白	0.7	0.2					
33	地色	一		0.2						
34	航路	赤				7.9				

〈XRF調査結果に関するコメント〉

【元禄薩摩国絵図】

- ・地色(01)から検出される元素はほとんどない。彩色は施されていない。
- ・海(02)、川(03)の薄青色箇所からは微量のCaが検出される。
- ・城(17)は白色に見えるが、この部分に彩色は施されていないと考えられる。
- ・多くの箇所少量のCaが検出されているが、他の絵具との混色(具)として使われている部分がほとんどである。
- ・村形(21、23、30、37など)からはPbが検出される。これは鉛白に由来すると考えられ、本作品では白色顔料として胡粉と鉛白の両方が使われている可能性が高い。これらの部分からはCaも検出される特徴がある。
- ・道(04)の赤色、建造物(18、19)の赤茶色部分からはHgとPbが検出される。Hgは辰砂と考えられるが、Pbは鉛丹か鉛白か判断できない。
- ・村形(21、30)の薄赤・薄桃色部分からもPbが大量に検出される。21からはHgも検出されるが、30からは検出されない。
- ・茶色の村形(25)からはFeが多く検出される。たいしや等の材料が使われている可能性が高い。Feが顕著に検出されたのは、この部分だけである。
- ・山(8)の薄橙色部分から検出される元素はない。一方、葉(14、16)からは微量のHgが検出された。
- ・村形(26)の薄黄色部分からはPbが少量検出されるが、村形(28)の濃黄色や国(33)薄黄色部分からはPbが検出されない。
- ・村形(24、29)、国(34)の薄緑色はCu系顔料である。ZnやAsは含まれていない。
- ・山(07)、樹木(11)の薄緑色からはほとんど何も検出されない。染料が使われている。
- ・指示穴(38)からFeなどは検出されなかった。

【元禄下総国絵図】

- ・地色(01)から検出される元素はほとんどない。彩色は施されていない。
- ・海(02)、川(03)の薄青色箇所からは微量のCaとFeが検出される。
- ・城(32)の白色部分から検出されるのはCaだけである。胡粉が使われていると判断できる。
- ・多くの箇所少量のCaが検出されている。他の絵具との混色(具)として使われている部分が多い。
- ・道(04)、航路(34)の赤色からはHgが特徴的に検出される。辰砂が使われていると考えられる。
- ・建造物(14、15)の赤茶色部分からもHgが検出されている。村形(18)の赤色からはHgとPbが検出される。このPbは鉛丹に由来すると考えられる。村形(22)橙色ではPbだけが特徴的に検出され、鉛丹に由来していることがわかる。村形(16)の薄赤色からは少量のCaが検出されるだけであり、染料が使われていることがわかる。
- ・村形(17)、国(28)の黄色部分からFeが多く検出される。黄色材料として黄土が使われていると考えられる。村形(20)茶色からもFeが大きく検出され、黄土あるいはたいしや等の材料が使われていると判断できる。黄色材料として黄土が使われている絵図作品は少なく、本作品の特徴の一つである。村形(23)薄黄色は染料によるものと思われる。
- ・樹木(11)、村形(19、24、30)の緑色はCu系顔料である。ZnやAsは含まれていない。
- ・山(07)、樹木(08、10)の薄緑色からはほとんど何も検出されない。染料が使われている。
- ・村形(31)茶色からもCuが検出された。材料は不明である。

〈可視反射分光調査結果に関するコメント〉

【元禄薩摩国絵図】

- ・薄青色の海(02)、川(03)、山(10)、葉(13)、村型(20)にはindigo系染料が使われている。
- ・薄緑色の山(07)、葉(11)にはindigo系染料が存在し、黄色染料との混色が示唆される。一方、村型(24)と日向国(34)のスペクトルは緑青を示唆するものである。
- ・白緑色の村形(29)もindigo系染料ではなく、緑青や白緑といった顔料の特徴を示すスペクトルである。
- ・赤茶色の村形(22)と桃色の村形(27)は同じ複数の色材による混色と考えられる。ただし、両者で混合比は異なる。薄桃色の大隅国(35)もこれらと類似したスペクトルを示すが、他の2つには見られた720nm付近のピークが存在しないことから、これらよりも少なくとも1種類少ない色材による混合と考えられる。

【元禄下総国絵図】

- ・薄青色の海(02)、川(03)、葉(09)、村形(21)にはindigo系染料が使われている。
- ・薄緑色の山(07)、葉(08)にはindigo系染料が存在し、黄色染料との混色が示唆される。
- ・松の葉(11)、村形(19)の緑色からはindigo系染料および緑青の両者が存在していることを示すスペクトルが見られた。
- ・村型(24)、武蔵国(30)のスペクトルは緑青の存在のみを示すスペクトルがみられた。indigoは存在していないといえる。
- ・黄色の村形(17)と常陸国(28)は同じ色材であると考えられる。これらと23の村形の黄色は明らかに異なる。
- ・薄赤の村形(16)と臙脂色の村形(27)は類似のスペクトルを示し、混合比は異なるが、同じ組み合わせの混色と考えられる。これらは元禄薩摩国絵図の大隅国(35)ともほぼ同一である。